HanaHana
2022年第9号
2022年6月15日発行　編集:SEIKAEN Design Lab　発行人:池田ひとみ
社会福祉法人 三幸福祉会　〒674-0051 明石市大久保町大窪3104-1　TEL 078-934-0800　https://seikaen.jp/

資格取得者

介護支援専門員
青木晴子
三谷恵
酒井渉
大久保健太

社会福祉士
原田七海
大前穂乃花

介護福祉士
安部未茄
岡竜司
尾西直人
川村美穂
駒澤和希
中本麻世
二星木実
小畑瑞希
杉浦深月
藤川由紀子

永年勤続表彰

勤続20年表彰
青木 友和
酒井 洋子
金井 浩美
山口 圭子

勤続10年表彰
江嶌 祐介
立花 知怜
高橋 睦子
増田 明日香
三谷 恵

法人発展貢献賞

地域貢献賞
高橋 睦子
森下 友美
溝部 あや
片岡 佐智代
興津 一博

アイディア賞
橋本 由紀
柏田 朝花
塩岡 由麻
中里 桃子
宮崎 眞子

研修報告表彰

研修発表表彰
藤原 亮太
鎌田 紘輔

研修講師表彰
平田 麻澄
飛谷 優太
本田 麻優子
芦分 智枝
橋爪 涼
神木 修

令和４年度
新入職員

今年は１７名の新入職員が入職しました!

三幸福祉会設立３５周年を迎えて

社会福祉法人 三幸福祉会
清華苑
SEIKAEN
miyukifukushikai seikaen

３５年という月日をこの大久保で地域の皆様に支えていただき、清華苑をここまで成長させていただいたことに心から感謝いたします。

のどかな小さい町であった大久保が今のように発展し、地域の皆様の口コミでご利用者が増えていき、さらには地域での活動を共にさせていただく毎日があることが、職員が前向きでご利用者に向き合える糧となっています。

私たちの気持ちは３５年前と何も変わっておりません。ご利用者とその家族、地域の皆様、職員が幸せであること、「三幸福祉会」の名の通り３者の幸せを実現するべくこれからも地道にこの大久保で歩んでいきたいと思っています。

常に地元の皆様の不安を解消できるよう、相談体制も整えております。何でもご相談ください。これからも清華苑は常に皆様に向けて発信し続けて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2022/06/15
社会福祉法人　三幸福祉会
理事長　池田ひとみ

社会福祉法人
三幸福祉会　清華苑
広報誌「はな華」

はな華
HanaHana

VOL.9
2022

Pick Up!

学校へ行こう

明石南高校との連携

はな華
HanaHana
社会福祉法人　三幸福祉会
清華苑　広報誌「はな華」
VOL.9
2022年6月15日発行

明石南高校で講師を担当する特別養護老人ホームの中迫介護員と老人保健施設の直原介護員

いつかどこかで誰かのために。

法人本部　統括部長
田村智之

兵庫県立明石南高等学校への講師派遣は、約13年前から始まりました。

当初は、様々な福祉専門職が仕事のやりがいなどをお話する座学中心でしたが、次第に介護福祉士達による実技演習中心へ移行していきました。今のように年間のカリキュラムを組んで毎月のように授業へ行くスタイルは平成27年頃からになります。

同校は総合学科で選択授業制となっているため、毎年クラスの人数は変動しますが、近年は「生活と福祉（2年生）」が1クラス、「社会福祉基礎（3年生）」が3クラスの構成が多く、全クラス合わせて50～60名の生徒と一年間共に過ごすことが多いです。

授業ではシーツ交換や移乗介助、車いすの操作、目の不自由な方の誘導、認知症、コミュニケーションの方法など多岐にわたります。

中には、生徒の一人として授業を受けていた学生が当法人に就職し、今度は講師の一人として教壇に立つというケースも出てきています。

また、私たちとしては、この授業を受けた生徒たちがいつかどこかで困っている人がいた時にそっと声をかけたり、手を差し伸べたり、必要な情報を提供したりと、誰かの役に立つ経験をしてもらいたいという思いがあります。そして誰かが誰かの役に立つ場面が地域で増えていくことで地域福祉力は高まっていくと考えています。私たちと過ごした経験がそんなきっかけの一つになって欲しいのです。

最後に、福祉の仕事の魅力は自分たちで伝えていくべきだと考えています。福祉の仕事は「やってみないと分からない」魅力がたくさんあります。だからこそ、実際に働いている自分たちが自分たちの言葉で語ることが大切です。そんな関わりの中で、将来福祉の仕事に就いてみたいという学生が現れたら、こんなに嬉しいことはありません。

今後も、学生達にとって、地域の皆さんにとって、働くスタッフ達にとって、三方良しの「つながり」を大切にしていきたいと思います。

日々の介護の仕事を高校の授業で実践！

通所リハビリテーション　清華苑すいすい
介護リーダー　鎌田紘輔

私が兵庫県立明石南高等学校の講師として携わりだしたのは、7年前です。当時は講師の補助としての役割でした。その経験を経て、数年後に私が主講師として教壇に立つこととなりました。

授業は、50分という短い時間ですが、生徒にとってわかりやすく、福祉に興味をもってもらえるかということを念頭に授業をおこないました。授業では、難しい福祉の専門用語を並べて話したとしても生徒たちが理解する事は難しいので、日頃私たちが行っている介護の仕事の実践を伝えるようにしました。

何より、私自身が楽しく授業を行いたかったので、実践中に待機している生徒がいれば、積極的に話しかけ、コミュニケーションをたくさん取り生徒との関係性を徐々に深めていきました。

毎年、年度初めは、全く知らない介護施設の職員が授業に来て、生徒たちも身構えている様な堅い雰囲気ですが、授業を重ねるうちに表情も柔らかくなり、授業の内容に対して積極的に質問などをしてくれるようになります。

それが福祉のことでもプライベートなことでもできる範囲で答えることで徐々に生徒と私の中での壁も無くなり、私も生徒も楽しく授業が行えるようになっていきます。

その後、私は異動が決まり、次の講師へ授業を引継ぐ事となりました

最後の授業では、各クラスの生徒からサプライズの手紙をいただきました。

手紙の内容は、

「とても楽しい授業でした」

「福祉に興味を持つことができました」

など、まさしく私が目標としていたこと。

授業を通じて、生徒に福祉の魅力を伝えることが出来たことが私自身とても嬉しく思い、感動した出来事となりました。

担当の先生にインタビュー！

明石南高等学校
教諭　中山智子先生

清華苑との連携について、どのように感じていますか？

清華苑さんに年間7～8回、高校での授業をお願いするのは、負担があるのではないかと思っています。しかし、専門の知識や技術、体験談を教えていただけ、またいろんな方に授業をしていただくことで、授業にも変化があります。教科書に従って授業すると、本当の苦労や難しさを理解することができないので、介護実習は実際体験することができるので貴重な時間だと思います。

介護への就職や将来の職業に就きたいと思っている生徒もいて、インターンシップ等、行かせていただけるので、学校の近くに受け入れてくださる施設があるというのはありがたいです。また、授業でも実際、介護の現場で仕事されている介護士の方にポイントを押さえ分かりやすく教えていただいているので、私自身、教科書だけでは分からないことも、想像しやすく、勉強になっています。看護系希望の生徒にも、将来活かすことができる内容だと思います。

介護の授業を受けた生徒達の反応はどうですか？

座学のみではなく、実際体験し、楽しく授業を受けています。また、話がおもしろく、毎回楽しみにしています。現場で経験されたことを、直接話をしてくれるので、貴重な経験だと感じています。

介護に興味がなかった生徒は、清華苑の人が来てくれて、楽しく実習を進めてくれ、実習を通して興味を持つようになったし、大変というイメージがあったけれど、イメージが変わったということを言っていた生徒もいます。

福祉用具を使ったり、道具の意図を考えたりすることで、高齢者や障害者がどんなことが難しいのかを理解することができた。それによって、介助する側になったとき、自分がやりにくいなと感じた部分をカバーできたりして、たくさんの発見があったと話している生徒もいます。

明石南高校の卒業生が語る！

かつての生徒は、今は同僚。受け継がれる福祉の想い

明石南高等学校　平成27年卒業
介護員　西海颯馬（写真右）
明石南高等学校　平成19年卒業
介護主任　長田和真（写真左）

2人の初めての出会いは？

（西海） 8年前の高校3年生の時です。私が受けていた介護の授業に講師の一人として長田主任が来てくれました。

（長田） 正直その時は生徒もたくさんいたので、一人一人は覚えていませんが、その時の様子が神戸新聞に掲載されたこともあり、授業のことは今でも覚えています。

どういう思いがあって清華苑に就職しましたか？

（西海） 清華苑の授業を受けたことが将来の仕事を考える上で大きな影響となりましたので、自分も母校に凱旋し、授業をしてみたいと思っていました。

初めて授業に行った時はどんな思いでしたか？

（西海） 講師として母校の後輩たちの前に立てたとき、やりたいと思っていたことが出来たという喜びもありましたが、当時はまだ入職して2年目だったので「自分で本当にいいのかな」という遠慮してしまう気持ちもありました。でも、いざ授業をしてみると改めて「この場に立ててよかった」という思いが強くこみあげてきました。

今後の抱負は？

（西海） 私の授業を受けてくれた学生が何らかの影響を受けて、もし清華苑に入職してくれるようなことがあれば、私の仕事の様子を見られても恥ずかしくないように成長しておきたいと思っています。

講師派遣の先輩として西海さんに伝えておきたいことはありますか？

（長田） これからは、技術面だけではなく、もっと大きな視点で福祉のことを伝えていってもらいたいです。福祉本来の魅力を実際に働いているスタッフが直接伝えることで「介護の仕事をしてみたいな」「福祉の世界で活躍したいな」と考える学生がもっと増えると思います。そのような点を意識した授業を是非して頂きたいと思います。

（西海） 先輩職員の思いを受け継いで、これからも学生の皆さんに福祉の魅力を伝えていきたいと思います。

2014年（平成26年）11月7日　金曜日
介護のプロに技術学ぶ
明石南高3年生ら8人
シーツ交換など体験
介護の技術をプロから学ぶ高校生＝明石南高校

心温まるエピソード①

この手で人を笑顔にする

グループホーム　清華苑
介護員　中川莉緒

「ありがとう。」この言葉をご利用者に言われると祖母の事を思い出します。

私は、元々福祉の仕事を目指していたわけではありません。祖母が調理師だったこともあり、祖母に憧れて幼いころから調理関係の仕事に就くのが夢でした。中学高校では、福祉とは関係のない調理と栄養学について学び、学校から帰ってくると祖母と夜ご飯を作る、それが私の楽しみでした。

「あんたは料理してる時が一番楽しそうやから、その手でいっぱいの人を笑顔にできる。」

そう言われた事が嬉しかったのを今でも覚えています。

そんな私に進路直前に転機が訪れました。それは病で祖母が亡くなった事です。私は祖母が危篤状態だと知らせを受けた時、泣きながら教室を飛び出し、祖母に会いに行きました。しかし、「ありがとう。」と直接言う間もなく祖母は逝ってしまいました。

それから、どこか心に穴がぽっかりと空いてしまい、気づけば毎日、朝起きて学校に行って、家に帰って寝ることを繰り返す日々でした。時は流れて徐々に元の生活に戻りつつある中、ふと祖母に言われた「その手で人を笑顔にできる。」という言葉を思い出しました。

私はもう一度将来を見直し自分は何になりたいのか、何がしたいのか考えました。あの時、祖母に何もできなかった後悔、そしてこの手で誰かを笑顔にしたい、その一心で福祉の道に進むことを決めました。

介護は思っている以上に大変な仕事です。でも、「ありがとう」という言葉を頂く度にやりがいや感動、仕事の楽しみをたくさん感じています。形は違うけれど祖母と約束した「この手で人を笑顔にする」という事を実現できるよう、ご利用者の方と同じ時間を共に過ごしています。

最後に天国にいる祖母に伝えたい事があります。

「おばあちゃん、わたしの夢叶ったよ、ありがとう。」

心温まるエピソード②

想いに耳を傾けて

グループホーム　清華苑ポートピア
介護員　小嶋綾子

女性ご利用者のMさんがグループホームへ入所されたのは89歳の時でした。

普段からご自分のお部屋で過ごされる事が多く、とても無口な方でした。

ある日の事、Mさんの入浴介助をしていると、Mさんは、自分の履いている紙パンツをじっと眺めて、小さな声で…

「これ汚れたらすぐ替えられるし、皆も同じこのパンツ履いているの？」

「これ赤ちゃんと一緒のパンツね…格好悪いね…」

とそうつぶやかれました。

その表情はとても悲しげで寂しそうでした。Mさんがその思いを打ち明けてくれた時、私に出来ることは何だろうかと考えました。私はMさんの理想のパンツへ向けて、各職員へ意見を求めました。

意見は賛否あり「紙パンツの方が安心ではないか」と心配する声もありましたが、先輩職員からの「Mさんの気持ちを考えて布パンツでやってみましょう」と背中を押して頂きました。

早速、新たに購入した布パンツを手にしたMさんは、大きく広げて、

「ええわ～レース付きやね、見てみて～赤ちゃんと違うね～大人やね～」

とキラキラと目を輝かせて、とても喜んで下さりました。

それからのMさんは表情も明るく、皆が集まるホールで過ごすことが多くなり、とても活動的に過ごされました。

ご利用者一人一人の想いに耳を傾けて、その方にとって本当に価値あるサービスを提供して行きたいと思います。

※文中に紹介されているご利用者と写真に写られているご利用者は別の方で関係はありません。